

アジアから見た日本 —相互依存関係の変化—

日本経済大学大学院教授

叶かのう
芳よし
和かず

- * 日本だけが一人沈んでいた
- * 中国の変質は循環的要因
- * 内需主導型経済の中国
- * 不毛な「人口ボーナス消滅」論
- * 技術進歩停滞で成長屈折
- * 人的資本で議論すべし
- * 成長屈折で環境問題は改善
- * アジアの発展も一様ではない
- * アジアに出遅れているアメリカ
- * ミャンマーの人材育成を支援したい



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

今日はお馴染みの叶芳和さんにおいていただきました。前回はTPPと日本の農業の話でもよかったのですが、叶さんは最近アジアについて、ミャンマー、ラオス、ボルネオなど東南アジアに盛んに行っておられます。したがって今回は、その辺のミクロ的な話も含め、そして大づかみなアジアと日本との関係についてお話をさせていただきます。それでは叶さん、よろしくお願います。（拍手）

叶 芳和

叶 叶でございます。浅野さんからアジアの中の日本というところで話せというお話をいただいたので、ちょっと漠然としているなど思いますが、お受けしたのですが、やはりどこに話を絞っていいかわからなくて最後まで悩んでいたの

です。

結局「アジアから見た日本—相互依存関係の変化」というテーマでお話することにしました。「アジアから見た」という意味は、日本の国内で日本の議論をしたり、あるいはアジアのことを議論したりしているのと、アジアの人たちが日本を見る目、あるいはアジア自身を語る場合とはそうとうギャップがあります。このギャップが、日本とアジアの違いではないかということです。

安倍さんはじめ、日本の再起についていろいろ議論されていますが、自画像、自分がどういう姿をしているかについて、客観的に描くことができれば、なかなかうまく戦略をつくることもできないのではないかと。自分はいったい